3.内視鏡検査前の問診と検査続行の判断

全ての患者に対して行う事

- 通常の問診
  基礎疾患、既往歴、アレルギーの有無、抗凝固剤服用の有無と
  休薬確認など、施設の内視鏡問診表に準ずる

- Covid-19に対しての問診
  上記に加えて、発熱や味覚・嗅覚障害など体調不良の有無、直近
  2週間の行動歴、海外や県外への移動歴、発症者との接触歴や濃厚
  接触の有無、家族や職場での発生状況など。必要な項目をルーチン
  化して行う。

問診にて検査可能かの判断

- 問診にて検査続行かどうかの判断に迷うような内容があった
  場合、必ず主治医または検査医へ報告し判断を仰ぐ。
  可能であれば医師の指示及び患者の同意のもと、検査前の
  Covid-19抗原検査などを考慮する。
  その際は患者のプライバシーに配慮すると同時に施設内の感染
  対策管理者への報告も行う。

4.検査同意の取得

患者へ伝えるべきことと注意点

- 新型コロナウイルスへの感染状態に関する問診や体温測定の結果次第では延期になる可能性があること。
- 内視鏡検査・治療に際しての感染対策は万全を期しているものの、内視鏡室や待合室にいる間にウイルスに曝露する可能性があること。

同意取得する際の注意点

- 無症候感染例や発症前の潜伏期間中の患者からの感染も報告されているため、同意を取る際にはマスクを着用し、可能な限りの距離を保つ。内視鏡検査室や待合室にいる間にウイルスに曝露する可能性についての同意をいただくことも検討する。
- 感染が疑わしいとされた患者で検査を施行すると判断した場合、患者には必ずマスクを着用してもらったうえで、同意書のサインには使い捨てのペンを使用して、マスク、フェースシールドと手袋を着用したスタッフが対応する。

5.前処置での注意点

前処置時の感染リスクを最大限減らす

- 処置室への患者出入り時は手指消毒とマスクの着用を徹底する。可能な限り一人ずつの入室とする。下剤服用などで長時間に複数の患者が同室する場合も距離を空ける、対面にならないようにする、換気の徹底などを行う。
- スタッフは確実な飛沫感染対策を行ったうえで対応する（サージカルマスクあるいはN95マスク、袖付きガウン、フェイスシールド、手袋）
- 前処置時は患者と対面にならないようにし、可能な限り咳嗽反射を誘発しないようスプレータイプの咽頭麻酔ではなくビスカスタイプを使用する。